

令和7年度 かほく市立外日角小学校 学校評価(中間報告)

重点目標	取組内容	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	肯定的結果	達成度	結果の考察	今後の方針	学校関係者評価
1 確かな学力の育成	ア 授業力・指導力の向上★	学習指導部	子供主体の授業を目指して、重点を「主体的に自己決定し、学びが深まる工夫」とし、3つの視点(児童が①見通しをもって学び方を選択するための工夫②自分の考えを深めたり、広めたりするための工夫③学び方や変容を振り返るための工夫)から授業づくりをしていく。	【成果指標】(教) 3つの視点の中から1つ以上を取り入れた授業を行っている。(児) 授業が分かる。	一日の授業で、 A：週4回以上できている B：週3回以上できている C：週2回以上できている D：ほとんどできていない	児童・教員評価 A+Bが90%未満の場合、学年研やブロック研で取組を検討する。	81% (教) 93.4% (児)	B	児童のA評価が前年度後期よりも10%高くなっている。教員の肯定的評価が低い。	3つの視点の捉えが教職員間で異なっている可能性がある。しっかりと取り組んでいても否定的な評価をしていることがあるので、教職員間で共通理解する場を設ける。	・「学びが深まる工夫」の3つの視点で具体的な工夫とはどんなことを共通理解していけばよい。 ・教師や他の児童の話を最後まで聞くことなどでこんなに素晴らしい授業ができると伝えることで、まず聞くことの大切さを定着させる。 ・否定的な評価をしている人の中には、工夫や反省点、改善点を導き出している人もいるかもしれない。自分に厳しく妥協しない人物かもしれない。どう見るかによって違ってくる。
	イ 学習規律の定着、基礎基本の定着・習熟	学習指導部	教師や他の児童の話を最後まで聞くこととする姿勢の弱い児童が見られる。	【努力指標】話す人の方を見て最後まで話を聞いている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童・教員評価 A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	100% (教) 92% (児)	A	児童・教員共に肯定的評価は高い。児童は、前年度後期よりもA評価が16%下がった。	児童に対して「聴く・話すステップアップ表」を使って、具体的に何ができるのかを明確にし、できていること、できるようになったことを積極的に価値づけていく。	・教師や他の児童の話をしっかり聞くことでこんなに素晴らしい授業ができると伝えることで、まず聞くことの大切さを定着させる。 ・否定的な評価をしている人の中には、工夫や反省点、改善点を導き出している人もいるかもしれない。自分に厳しく妥協しない人物かもしれない。どう見るかによつて違ってくる。
	ウ 読書活動の充実	学習指導部	低学年は、図書館に楽しくて通う姿が見られるが、高学年になると進んで読書をする児童が少なくなる傾向がある。	【成果指標】週に1回図書館を利用する児童が80%以上である。	A：80%以上の児童があてはまる B：70%以上の児童があてはまる C：60%以上の児童があてはまる D：50%以上の児童があてはまる	児童・教員評価 Aが80%以下の場合、取組の検討・改善をする。	78% (教) 82.4% (児)	B	図書館を利用する児童の肯定的評価は80%を超えている。教員の肯定的評価が低い。	児童に対して図書館利用を呼びかけ、本に親しむ時間を確保する。調べ学習ではタブレットを活用する傾向にあるが、本の良さを伝えながら課題解決に適切な方を使つように促す。	
2 生徒指導の充実	ア 基本的生活習慣の徹底	生徒指導部	玄関での朝のあいさつは少しづつ元気になっていいが、安全ボランティアや来校者へのあいさつを進んでできる児童が少ない。	【努力指標】自分から進んでいいあいさつをしている。	A：90%以上いる B：80%以上いる C：70%以上いる D：70%未満いる	達成度がB以下の場合、取組の検討・改善をする。	92.2% (児) 82.4% (保)	B	児童・保護者共に、肯定的評価は前年度後期と同程度。	特別活動部と連携し、縦割り班(異学年交流)でのあいさつ運動を企画する。また、朝の挨拶だけでなく、日中のあいさつや下校時の挨拶も意識できるよう、生活目標とタイアップしながら取り組んでいく。	・イイダの交差点で交通指導をしていると、とても元気に挨拶してくれる。 ・挨拶の声は小さいが、初めて会った見守り隊の自分に「運動会が嫌だ!」学校行くのは本当は嫌など、話しかけてくれる。人懐っこい。それでも頑張って学校に行ってえらいと褒めている。
	イ いじめ・不登校の組織的対応の徹底★	生徒指導部	学校生活で気になることや児童同士でのトラブルなどを管理職・学年間・保護者へ丁寧に報告・連絡している。気になることは必ず管理職・学年間・保護者へ報告・連絡することを継続する。	【努力指標】児童の気になることに対する管理職・学年間での情報共有、また保護者への電話、面談、訪問など速やかな対応を行っている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A+Bが90%未満の場合、取組の検討・改善をする。	96% (教)	A	教員のA評価は88%と高いが、肯定的評価が100%ではない。	今後も学年間の横つながりや管理職、生徒指導主事への報連相を意識して、必ずチームでの対応を心掛ける。併せて、相談しやすい雰囲気づくりにも努め、A評価100%をめざす。	・さまざまな児童がいる中で一人一人に対応するのは根気がいるし、大変でしょうが、あきらめずに取り組んでくださるようお願いします。 ・自己肯定感が低いことは悪いことではないと思う。ストレスが高くなる傾向はあるが、みんなが気付かないことに気付いていたり、人にやさしくできたり、自信のない子に共感できたりと、長所もあるのではないか。そこを認めていてもよいのではないか。 ・学習面ではハードルの高い子も特別活動やイベントで力を発揮できる子がいるので、あらゆる場面で満足度を高めていくのはよい方法だと思う。
	ウ 校内支援センターの有効活用児童にとって安心・安全な居場所づくり★	生徒指導部	自己肯定感が低く、学校が楽しくない(C,D)を感じている児童が約11%いる。	【満足度指標】児童が学校が楽しいと感じている。	「学校は楽しいですか、(楽しいと言っている)」に対して、AもしくはBと答えた児童・保護者が A：90%以上いる B：85%以上いる C：80%以上いる D：80%未満いる	達成度がB以下の場合、取組の検討・改善をする。	92.6% (児) 92.2% (保)	A	児童のA評価が前年度後期よりも10%高くなっている。保護者の肯定的評価も高い。	特別活動部と連携し、学級活動の積極的実施や、児童主体のイベントの企画を行うことで参画意識を高め、学校満足度のさらなる向上に努める。	・さまざまな児童がいる中で一人一人に対応するのは根気がいるし、大変でしょうが、あきらめずに取り組んでくださるようお願いします。 ・自己肯定感が低いことは悪いことではないと思う。ストレスが高くなる傾向はあるが、みんなが気付かないことに気付いていたり、人にやさしくできたり、自信のない子に共感できたりと、長所もあるのではないか。そこを認めていてもよいのではないか。 ・学習面ではハードルの高い子も特別活動やイベントで力を発揮できる子がいるので、あらゆる場面で満足度を高めていくのはよい方法だと思う。
3 豊かな心の育成	ア 道徳教育の充実	学習指導部	学校行事や体験活動などの関連を図ったり、道徳の教科書をもとに、いじかわ版道徳教材やG.T.を活用したりして、個々の児童が、思いやりの心を持ったり、夢や目標を持つたりするように、共通実践を蓄積する必要がある。また、規範意識の向上も必要である。	【努力指標】中心発問の吟味と道徳掲示の蓄積をしていく。	A：毎時間すべてできている B：おおむねできている C：あまりできていない D：全くできていない	教員評価 A+Bが100%未満の場合、授業のあり方について検討・改善をする。	95% (教)	B	教員のA評価が低い。	道徳掲示については、昨年度の間に整理し直し、保存してある。学年会で道徳教材の中心発問について話し合う時間を設ける。	・道徳の授業で掲示の工夫や具体物の活用等に長けている教員の模範授業を参観するとよい。授業の在り方、中心発問の吟味、構造的な板書、効果的な掲示を身に付けていけばよい。
	イ 特別活動の充実	特別活動部	なかよしグループ活動には、楽しく参加しているが、協力し合ったり、助け合ったりする関係が十分にできているとは言えない。	【努力指標】なかよしグループ活動に自分から進んで活動に参加し、楽しむことができる。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童評価 A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	95% (児)	A	児童のA評価が前年度後期よりも6%高くなっている。	掃除での関わりはあるがそれ以外で関わる機会が少ない現状にある。委員会やクラブ活動、学校行事、児童会行事などをを通して異学年での活動も充実させていく。	・今年の運動会は平日で驚いた。木曜日開催で給食もあり、代休もないで保護者は助かったという意見が多かった。保護者にどういう開催方法がよいのかアンケートを取るのはよい。

重点目標	具体的な取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	肯定的結果	達成度	結果の考察	今後の方針	学校関係者評価
4 健康・安全教育の推進	ア 体力の向上★	特別活動部	休憩時間に体を動かしている児童は多いが、運動能力調査の結果に反映されるまでは至っていない。また、運動を好まない児童もいる。	【成果指標】マラソンやなわとびチャレンジカード等に意欲的に取り組み、体力・運動能力の向上が見られる。	「進んで体を動かしていますか」に対して、AもしくはBと答えた児童が A : 90%以上いる B : 70%以上いる C : 50%以上いる D : 50%未満いる	達成度がB以下の場合、取組の検討・改善をする。	96% (教) 91.2% (児)	A	児童のA評価は、前年度後期よりも9%高い。教員の肯定的評価も高い。	今後も前向きに体を動かすことができるよう、委員会でのスポーツイベンントや、体育の授業に楽しく体を動かせるウォーミングアップなどを取り入れていく。また、スポーツチャレンジにも積極的に取り組んでいく。	・道に横並びになつて帰つたり、追いかけっこのように走つたりしている姿をたまに見かける。 ・自転車の乗り方違反罰則がきびしくなつてるので、体験を通しての安全意識の向上は大切だと思う。 ・イタの交差点は危険。白尾から来る子は、コインランドリー前の横断歩道を渡るよう指導したらよい。イタの前の横断歩道までわざわざ行って渡るので危険。秋浜や浜北の児童は、すみよし保育園跡のところの押しボタン信号を渡らせねばどうか。でも、学校までの道が見通しが悪くて危険かもしれない。
	イ 危険予測能力、事故回避能力の育成	保健安全指導部	登校時の交差点の渡り方や下校時の道路の歩き方に課題が見られる。特に低学年児童での怪我が多い。	【成果指標】交通ルールを守つて安全に怪我無く道路を歩くことができる。また、非常時において避難の仕方が分かる。	「歩き方や自転車の乗り方、災害時の行動に気を付けていますか（交通事故や災害から身を守る習慣が身についている）」に対して、AもしくはBと答えた児童・保護者が A : 90%以上いる B : 80%以上いる C : 70%以上いる D : 70%未満いる	達成度がC以下の場合、取組の検討・改善をする。	95% (児) 92.6% (保)	A	児童・保護者共に肯定的評価が90%を超えてい。	A評価であるが、今年度も交差点の横断等で危険な場面があつたり、登下校中のケガが多かつたした。今後も、定期的な下校指導や、地震災害に備えて余震も含めた避難訓練、不審者の校内侵入への対応訓練を行い、児童の安全への意識を高めていく。	・イタの交差点は危険。白尾から来る子は、コインランドリー前の横断歩道を渡るよう指導したらよい。イタの前の横断歩道までわざわざ行って渡るので危険。秋浜や浜北の児童は、すみよし保育園跡のところの押しボタン信号を渡らせねばどうか。でも、学校までの道が見通しが悪くて危険かもしれない。
5 教職員の人材育成・多忙化改善	ア 学校運営の参画意識を高める	管理職	昨年度までは、一人に業務が集中することもあつたが、今年度より、業務を細分化し、できるだけ一人一役となるよう担当割り振り自覚をもつて業務の遂行を心がけられるようにする。	【努力指標】自分の担当に見通しをもち、提案・運営を積極的に行う。	A : よくあてはまる B : おおむねあてはまる C : どちらかといえばあてはまらない D : あてはまらない	教員評価 A+Bが90%未満の場合、取組の検討・改善をする。	89% (教)	B	教員の肯定的評価がやや低い。C評価が11%(3人)いる。	業務の難易度や繁忙期により、負担感や不慣れさが生じており、担当業務への見通しや提案・運営面で自信や経験が不足していると思われる。経験豊富な教員をメンターとして配置し、相談しやすい体制を整える。また、こまめに担当業務の成果と課題を共有し、評価改善につなげてい。	・運動会の若手教員のはつらつとした活躍ぶりを見ることがでて感心した。今後も学習面、校務分掌等いろいろな面で頑張りや成果を認め、励まし、更なる向上を目指して教え合う風土の醸成を大切にしていければよいと思う。 ・授業の準備等を共有して時間を短くすればよい。自分のこだわりの教材や教え方があるのは仕方ないが、できるところはどんどん共有して効率よく仕事をするとよい。 ・ICTをどんどん活用し、教員の働き方改革が向上するとよい。
	イ 研修の充実若手主体で取り組む若プロ	教務部	担当としての研修会や郡市教育課程研修会の参加のみになっている教職員が見られる。	【成果指標】主体的に若プロ等の研修会に参加する。主体的に相互授業参観に参加する。	A : 全て参観できた B : 学期末に2回参観できた C : 学期末に1回参観できた D : 参観できなかつた	教員評価 A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	86% (教)	A	肯定的評価は高いが、C・D評価が14%(3人)いる。	若プロ等の研修会に参加しやすいように放課後の時間を確保していく。 相互授業参観の計画を早めに立て、C4thや終了で周知していく。	・運動会の若手教員のはつらつとした活躍ぶりを見ることがでて感心した。今後も学習面、校務分掌等いろいろな面で頑張りや成果を認め、励まし、更なる向上を目指して教え合う風土の醸成を大切にしていければよいと思う。 ・授業の準備等を共有して時間を短くすればよい。自分のこだわりの教材や教え方があるのは仕方ないが、できるところはどんどん共有して効率よく仕事をするとよい。 ・ICTをどんどん活用し、教員の働き方改革が向上するとよい。
	ウ 教職員が担うべき業務に専念できる環境を確保教材研究や学年会の時間を確保	管理職	超過勤務はやむをえないという意識から、ワークライフバランスや適正な勤務時間のさらなる意識向上が必要である。	【努力指標】週2回以上19時00分までに退校している。	A : よくあてはまる B : おおむねあてはまる C : どちらかといえばあてはまらない D : あてはまらない	教員評価 A+Bが90%未満の場合、取組の検討・改善をする。	79% (教)	C	A評価は高いものの、D評価が18%(5人)いる。	「週2回以上19時前退校」の目標を明示し、達成状況を定期的に共有すると共に、面談を行い早帰りを阻害する要因を特定し、業務整理や調整を行う。また、会議時間の短縮、校務分担の見直し、ICT活用などで業務量を削減する。	・運動会の若手教員のはつらつとした活躍ぶりを見ることがでて感心した。今後も学習面、校務分掌等いろいろな面で頑張りや成果を認め、励まし、更なる向上を目指して教え合う風土の醸成を大切にしていければよいと思う。 ・授業の準備等を共有して時間を短くすればよい。自分のこだわりの教材や教え方があるのは仕方ないが、できるところはどんどん共有して効率よく仕事をするとよい。 ・ICTをどんどん活用し、教員の働き方改革が向上するとよい。
6 学校・家庭・強域化、学校種間の連携	アイ 架け橋期の目標の具現化と小中接続を意識した指導の推進★	教務部	架け橋期では、幼保小連絡会やスタートカリキュラムを活用してスムーズに学校に慣れることができている。小中連携では、中学校の規律等のルールに戸惑う生徒も見られる。	【努力指標】幼保小連絡会、スタートカリキュラム、小中連絡会での情報共有を活かして指導にあたる。	A : よくあてはまる B : おおむねあてはまる C : どちらかといえばあてはまらない D : あてはまらない	教員評価-(1~6年生)- A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	78% (教)	B	肯定的評価が目標に到達できなかつた。C評価が19%(5人)いる。	1年生は、幼保小連絡会等でこども園と密に連携している。6年生も小中連携で相互交流し、充実している。2~5年生が幼保小中連携について、なかなか意識できていない。キャリア・パスポート等を活用していく。	・学校種間の連携が幼保小連絡会と小中連携を具体的な目標としているので、全児童対象となりにくく。年間を通して連携する方向が大切である。 ・校種間連携を更に充実させてほしい。引継ぎが不十分なところがあるように聞く。他校区から転入する児童や特別な支援や配慮が必要な児童の確実な引継ぎができるようにしたらよい。個別の指導計画など、形式や様式を統一する等、引継ぎがスムーズにできるように望む。 ・キャリア・パスポートで子供自身が自己を振り返ることができるように、全学年で振り返る項目を統一したらどうか。そうすれば、自分で成長がわかると思う。
	ウ 各種便りやホームページ等での情報発信の充実	情報担当	様子や取組を更新していく学年と更新していない学年の差がある。	【成果指標】定期的にホームページを更新する。	A : 毎週更新している B : 隔週で更新している C : 月1回で更新している D : 一ヶ月以上更新していない	達成度がA以下の場合、取組の検討・改善をする。	67% (教)	C	A評価は41%だがC、D評価が33%(9人)いる。	A評価は41%だがC、D評価が33%(9人)いる。	・学校種間の連携が幼保小連絡会と小中連携を具体的な目標としているので、全児童対象となりにくく。年間を通して連携する方向が大切である。 ・校種間連携を更に充実させてほしい。引継ぎが不十分なところがあるように聞く。他校区から転入する児童や特別な支援や配慮が必要な児童の確実な引継ぎができるようにしたらよい。個別の指導計画など、形式や様式を統一する等、引継ぎがスムーズにできるように望む。 ・キャリア・パスポートで子供自身が自己を振り返ることができるように、全学年で振り返る項目を統一したらどうか。そうすれば、自分で成長がわかると思う。
7 カリマネ	ア カリマネの充実	教務部	教科横断の開通単元を学期に1つ以上設定し、確實に取り組むようにしている。	【努力指標】学年会でカリマネの成果と課題について話し合い、教科横断を学期に1回以上、取り組む。	A : よくあてはまる B : おおむねあてはまる C : どちらかといえばあてはまらない D : あてはまらない	教員評価-(1~6年生)- Aが100%未満の場合、取組の検討・改善をする。	100% (教)	A	A評価100%。全学年で取り組めた。	学年会で毎月話し合ふことでPDCAサイクルを回し、資質・能力の質を高めるような教育課程の改善を行なうことができている。夏季休業中にには、カリマネ全体研修を開き、共通実践について共通理解を図った。	・学校種間の連携が幼保小連絡会と小中連携を具体的な目標としているので、全児童対象となりにくく。年間を通して連携する方向が大切である。 ・校種間連携を更に充実させてほしい。引継ぎが不十分なところがあるように聞く。他校区から転入する児童や特別な支援や配慮が必要な児童の確実な引継ぎができるようにしたらよい。個別の指導計画など、形式や様式を統一する等、引継ぎがスムーズにできるように望む。 ・キャリア・パスポートで子供自身が自己を振り返ることができるように、全学年で振り返る項目を統一したらどうか。そうすれば、自分で成長がわかると思う。